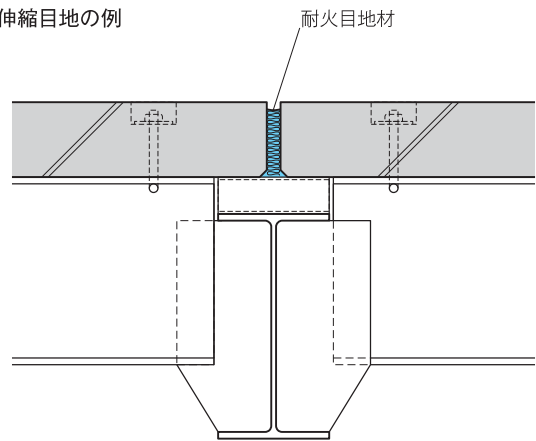


- 構造躯体にエキスパンションジョイントがない場合でも、大規模な工場、倉庫などの大面積の屋根に使用する場合は、地震時の構造躯体の変形や温度変化による構造躯体の熱膨張収縮が予測されますので、例えば大梁の上で 10 ~ 20mm 程度の伸縮目地を設けるなど、配慮が必要です。▶ 図6

図6 伸縮目地の例



注意

E

## その他の注意

- 特に振動の大きな建物、屋内が高温あるいは高温となる建物、ガス・薬品などにより化学的に有害な影響を受ける建物などでは、使用しないでください。



警告

F

## パネルの加工は避ける

- 切断・切欠き・溝掘りなど、パネルの加工は構造耐力上や施工能率上大きな支障となります。パネル強度の低下やひび割れ発生などの支障が出る場合があります。設計時に十分な検討を行い、パネル加工は避けるよう計画してください。
- やむを得ず現場で加工する場合には、表に示す加工範囲を目安として行ってください。
- 鉄筋を切断する加工は、鉄筋切断面に有効な防錆処理が必要です。▶ 下表

## 屋根パネルの加工範囲の目安

切断・切欠き・溝掘りなどのパネルの加工により、パネル強度の低下やひび割れ発生などの支障が出る場合があります。設計時に十分な検討を行い、パネルの割付けを考慮してください。

※パネル強度の検討を要せずに加工できる範囲は、以下の通りです。

| 孔 あ け  | 切 欠 き   |
|--|---|
| <p>①パネル内の鉄筋を切断しない範囲とします。</p> <p>②孔あけの個数は1箇所とし、その径は50mm以下とします。</p> <div style="text-align: center;"> <p>○ □ 50mm以下</p> </div> | <p>①パネル隅角部の片側1箇所のみで、下図の範囲とします。</p> <p>②切欠き部には、L-50 × 50 × 6以上の支持材を設けます。</p> <div style="text-align: center;"> <p>200以下</p> <p>W/3以下</p> <p>350以上</p> <p>支持材 L-50×50×6以上</p> <p>パネル幅W</p> </div> |